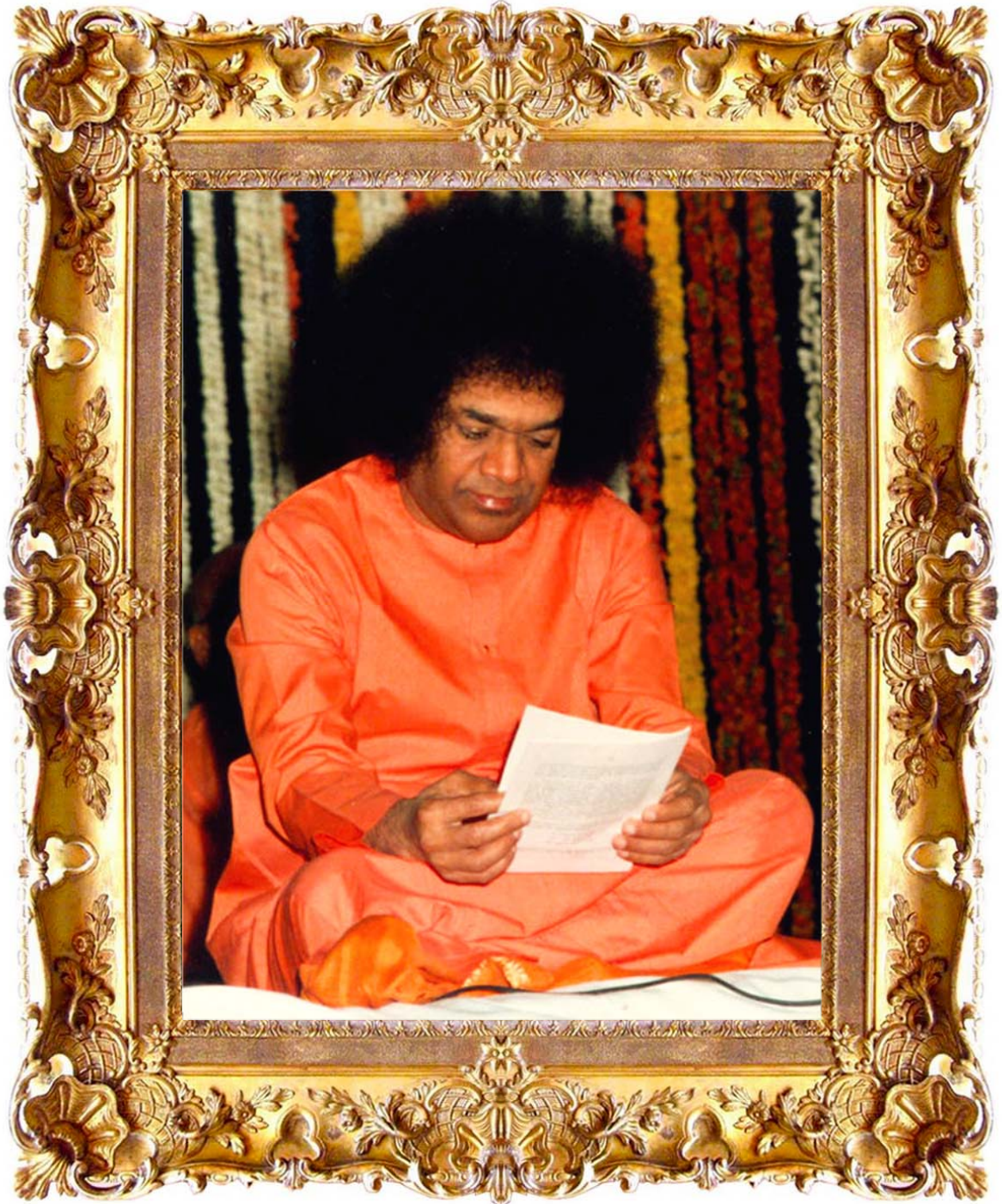
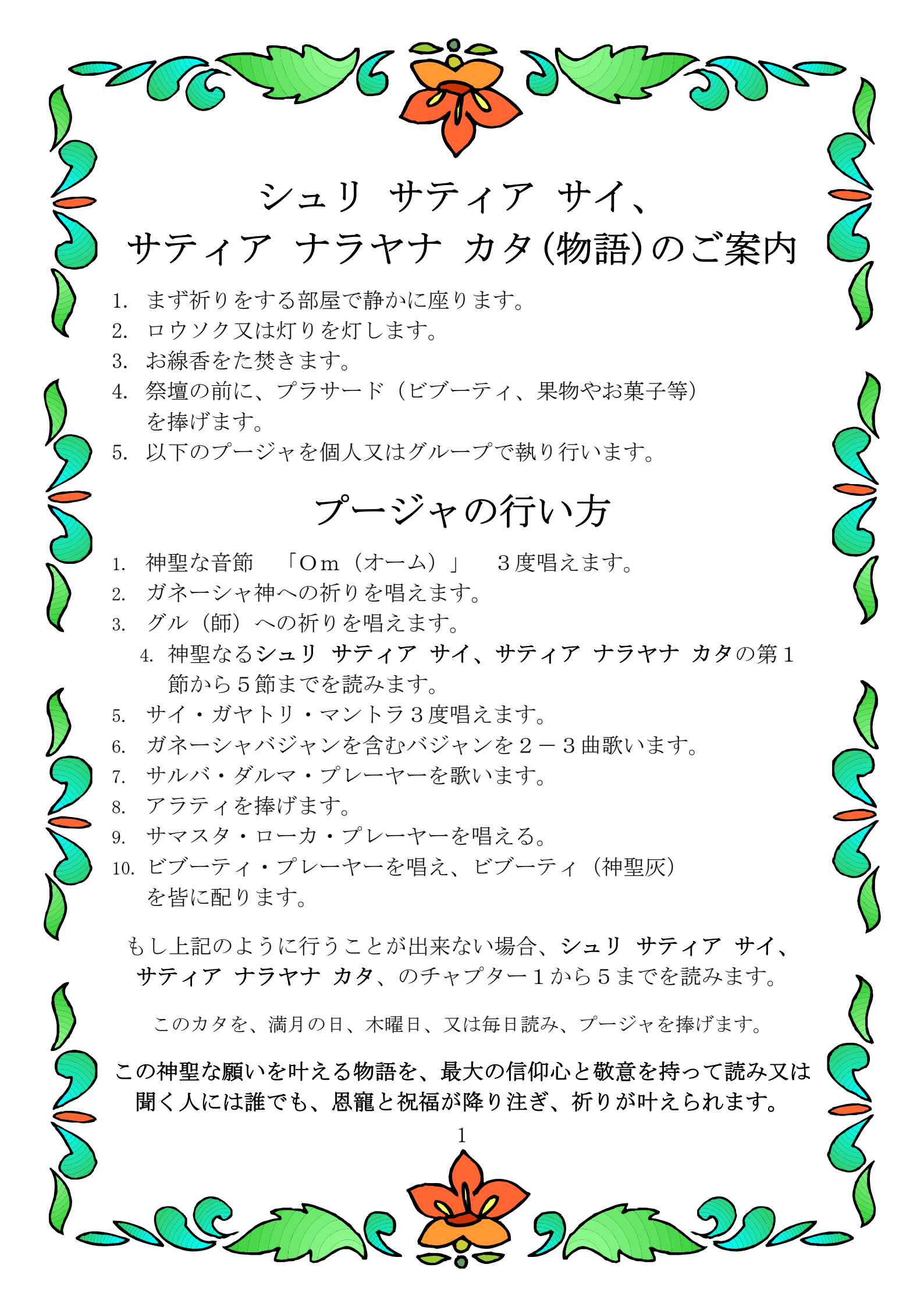


シュリ サティア サイ



サティア ナラヤナ カタ

*Japanese*



## シュリ サティア サイ、 サティア ナラヤナ カタ (物語) のご案内

1. まず祈りをする部屋で静かに座ります。
2. ロウソク又は灯りを灯します。
3. お線香をた焚きます。
4. 祭壇の前に、プラサード（ビブーティ、果物やお菓子等）を捧げます。
5. 以下のプージャを個人又はグループで執り行います。

### プージャの行い方

1. 神聖な音節 「Om (オーム)」 3度唱えます。
2. ガネーシャ神への祈りを唱えます。
3. グル（師）への祈りを唱えます。
4. 神聖なるシュリ サティア サイ、サティア ナラヤナ カタの第1節から5節までを読みます。
5. サイ・ガヤトリ・マントラ3度唱えます。
6. ガネーシャバジヤンを含むバジヤンを2-3曲歌います。
7. サルバ・ダルマ・プレーヤーを歌います。
8. アラティを捧げます。
9. サマスタ・ローカ・プレーヤーを唱える。
10. ビブーティ・プレーヤーを唱え、ビブーティ（神聖灰）を皆に配ります。

もし上記のように行うことが出来ない場合、シュリ サティア サイ、サティア ナラヤナ カタ、のチャプター1から5までを読みます。

このカタを、満月の日、木曜日、又は毎日読み、プージャを捧げます。

この神聖な願いを叶える物語を、最大の信仰心と敬意を持って読み又は聞く人には誰でも、恩寵と祝福が降り注ぎ、祈りが叶えられます。



## ガネーシャ神への祈り

Vakra Tunda Maha Kaya, Surya Koti Sama Prabha  
Nirvighnam Kuru Mey Deva, Sarva Karyeshu Sarvada

ヴァックラトウンダ・マハー・カーヤ  
スールヤ・コーティ・サマップラバ  
ニルヴィッグナム・クルメー・デーヴァ  
サルヴァ・カーリエーシュ・サルヴァダ

美しい曲線の鼻を持ち巨大な御身体をされたる主よ、  
太陽の1000万倍の輝きを放たれる主よ  
あなた様に我は祈ります  
どうか私の全て善き行いから  
常に障害をお取り除きください

## グル（師）への祈り

Gurur Brahma Gurur Vishnu, Gurur Devo Maheshvarah  
Guruh Sakshat Para Brahma, Tasmai Shri Guravey Namah

グル ブラフマー グル ヴィシュヌ  
グル デーヴォー マヘーシュワラ  
グル サークシャート パラム ブラフマ  
タスマイー シュリ グラヴェー ナマハ

グルはブラフマー（創造神）  
グルはヴィシュヌ（維持の神）  
グルはシヴァ（破壊神）  
グルこそは正に至高の神  
崇高なるグルに帰依致します

## 第1章：降臨そして聖なる幼年時代

バガヴァン・シュリ・サティア・サイババ様は、南インドのアンドラ・プラデシュ州にあるプッタパルティと呼ばれる小さな村に御生まれになりました。父親の名はシュリ・ペッダ・ヴェンカパ・ラジュ、聖なる母の名はイーシュワランマといたしました。

母イーシュワランマはとても敬虔な女性で、主を喜ばすため常に苦行を行っていました。主ナラヤナ神は、彼女の真摯で神聖な愛を大変お喜びになられ、再度この世に降り立ち神の神聖なる遊戯をご演じなることを決意なさいます。主ナラヤナ神は、親愛なるイーシュワランマを現世での母としてお選びになり、ペッダ・ヴェンカパ・ラジュを父として選びました。

母イーシュワランマ自身の証言によると、井戸から水を汲んでいる際、天から光り輝く青い光が降臨し、子宮の中へと入って来ました。その光が体内に入ると、イーシュワランマは気絶して倒れました。彼女の義母は以前から、もし万が一何かが起こったとしても、全ては神の御意思であるので恐れてはなりません、と警告していました。バガヴァンの誕生は、受胎から起こったものではなく、降臨であったのです。この秘密は誰にも明かされる事はなく、バガヴァン自身が、母イーシュワランマがこの世を去る数日前に、この井戸での体験を話すよう彼女に指示をし、始めてこの世に知られることとなったのでした。

イーシュワランマの妊娠が進み、9ヶ月目が近づくと、家の中にあつた楽器がひとりでに神聖な音を奏でました。太鼓がたたかれ、ビーナは奏でられ、シンバルの音が響き、家の住人は皆この神聖なメロディと香りに目を覚ましました。

1926年11月23日がとうとう訪れました。その日は月曜日、シバ神の日でした。そして、その日は豊作の年であり、光の月でもありました。イーシュワランマの義母はサティア・ナラヤナ・プージャをちょうど終わらせ、娘にその神聖なプラサードを与えていました。そのプラサードをイーシュワランマが食べた後少しすると、サイ・ナラヤナがお生まれになりました。

幼児は非常に凛々しいお顔立ちをしておりました。彼は、サティヤ・ナラヤナと名付けられます。ある日、赤子のサティヤが揺り籠で眠っていると、サティヤが横たわる布の下で何かが動くのを見て横にいた女性が驚きました。赤子のサティヤを抱き上げると、何と蛇がするすると動き出し、数メートル先で居なくなりました。そうです、アディシェーカラ神が、天上の国バイクンタで主を恋しく思い、主のお供をするため地上に降りてきていたのです！

子供になったサティヤ・ナラヤナは、ベジタリアン食以外のものは決して口にすることはなく、肉魚が調理される家にも訪れることはありませんでした。あるところに、カーナム・スッバマというとても清らかな女性があり、彼女は愛らしいサティヤのことをとても気に入っておりました。サティヤは、ほとんどの時間をこのスッバマの家で過ごしました。この化身においても、ヤショダは必要だったのです！

サティヤの両親の家を訪れたいかなる乞食も、手ぶらで送り返されることはありませんでした。サティヤは、乞食にふんだんに食事が振舞われることを取り計らい、時には自分自身は食事を取らずして施しを続け、母や姉を荷立たせました。後にサティヤをお昼ごはんと呼ぶと、サティヤの神聖な手からはおいしそうな匂いが漂っているのです。そのようなおいしいそうな食べ物をどこでもらったのか聞かれると、サティヤはきまって「老人がくれた。」と返答しました。

子供でありながらも、サティヤは自身の真の性質である「愛」を示し始めました。サティヤは、友人が悲しんでいるのを見逃すことは出来ませんでした。彼は、果物、キャンディー、鉛筆などを物質化して友人に与え、彼らを喜ばせました。時には小さな子供たちを集め、人形の部屋を作り、その中に神々の写真を飾り、バジャンを教えたりもしました。

サティヤは小学校を終えると、近くのブッカパトナム村の学校に入学しました。そこでも、サティヤはスクールメートの中で人気者になります。

教師の1人であるメハブーヴ・カンは、サティヤをととてもかわいがっておりました。ある日、別の教師がサティヤが授業中にノートを取っていないことに気が付きます。教師のエゴが傷つき、彼は罰と

してサティヤを椅子の上に立たせました。この教師の授業の時間が終わりチャイムが鳴ります。

しかし驚いたことに、この教師は何と椅子から立ち上がることが出来ませんでした。次のクラスの教師であった、メハブーブ・カンが教室に入った時、サティヤはまだ椅子の上に立ったままでした。

カンは、今やもう完全に当惑しきったこの同僚の側まで行き、椅子を空けるよう言いました。しかし、可哀想なこの教師はもうほとんど涙目になっています。「メハブーブさん！椅子が張付いて離れてくれないのです！」と教師は訴えました。カンは、クラスを見回してみました。教室の子供たちは、この教師同士の話を聞きクスクスと笑っています。

驚いたことに、何と親愛なるサティヤが椅子の上に立たされ、しかしこのドラマを楽しんでいるではありませんか。カンはショックして、この教師にサティヤを椅子から降ろすようにと述べ、それ以外に椅子を彼の体から離す方法は無いと言いました。既に面目を無くし大きな恥をかいた教師は、サティヤに椅子から降りるようにと述べました。そうするや否や、椅子も彼の体から離れました。このように、サティヤは彼の神性を示し始めました。

ある日、タンガ（馬車）の運転手が馬を無くしました。彼はいたるところで馬を探しましたが、見つかりませんでした。誰かが、近くの学校で神聖な少年が学んでおり、この少年なら馬の居場所が分かるだろうと彼に伝えます。シルディ・アバターの時と同じように、サティヤはこの男をやさしく招き寄せ、馬は村の外のマンゴー林で草を食べていると教えました。サティヤが述べたとおり、運転手は彼の馬を見つけることが出来、歓喜しました。それ以来、全てのタンガの運転手は、サティヤに自分のタンガに乗ってもらい、彼らも祝福され商いの成功がもたらされるよう祈るようになりました。

シュリ サティア サイ、サティア ナラヤナ カタの第1章  
を吉兆の内にここに終えます。シュリ・サイに帰依致します。

全てに平安がありますように！



## 第2章：サイババの使命が始まる

1940年3月8日、サティヤは鋭い叫び声をあげ、意識を失い倒れました。彼は右のつま先を強く押さえていました。家族全員が、サティヤはサソりに刺されたと思いました。しかし実際には、サティヤはある信者を助けるために身体を抜け出していたのでした。今までこのようなことをサティヤが人前で行ったことが無かったので、誰一人としてその真相を知り得ませんでした。皆はサソリを探しましたが、それが原因でないのにそのようなものが見つかるはずはありません。

少しするとサティヤは目覚ましましたが、以前のように落ち着いていました。翌日、またサティヤは意識を失い倒れました。後にサティヤが目覚ますと、周囲の人々に村の女神であるムッティアランマがお怒りなので、誰かが彼女の御前へ行きココナッツを砕き、ショウノウを焚かねばならないと伝えました。

寺院でココナッツが砕かれると、サティヤは家に居ながらココナッツが3つに砕かれたことを皆に伝えました。実際にその通りでした。何人かの人にはサティヤが霊に取り付かれているのではと思い、あらゆる種類の薬や薬草を用いてサティヤの治療を始めます。他の人々は、サティヤが狂ってしまったかと思い、サティヤの両親を呼びました。

サティヤの両親が彼の元に到着し、愛する息子のその変わり果てた状態を見て大変ショックします。彼らさえもどうしたらよいか分からず、悪霊払いへサティヤを連れて行くことにしました。この悪霊払いは、霊を追い払うのに非常に残酷な方法を用います。彼は、愛らしいサティヤの柔らかい頭皮を鋭利な刃物で切り裂き、その傷口にライムの汁を絞り、非常に刺激性のある粉を振りかけました。サティヤの愛らしいお顔は、大きく腫上がってしまいます。

サティヤのひどい状態を見て、母と妹は非常に悲しい思いをしましたが、一度悪霊払いにサティヤを預けた以上何もすることは出来ませんでした。このような母と妹の境遇を見て、サティヤは近くに生

えている草を取り、その草からジュースを搾りサティヤの目にあてがうようにと話しました。

母と妹は、悪霊払いにサティヤの傷が良くなったらまた連れて来るのでもう手を出さないで欲しいと頼みました。彼はしぶしぶサティヤを解放します。サティヤの話聞き、母と妹は草から絞ったジュース数滴をサティヤの目に垂らすと、やがてその目は元に戻り、以前の様にいたずらっぽく輝きました。

月日は流れ、サティヤは村人に高度なヴェーダ哲学を説きはじめます。そして、サイババと呼ばれる聖者についても話し始めました。父ペッダ・ヴェンカパ・ラジュは、我慢の限界に達していました。

ある日、父はこの悪霊を追い払おうと手に棒を携えサティヤの元にやって来ます。父はサティヤに言いました。「おまえは誰だ？真実を述べよ！」サティヤは、愛と権威を持って落ち着いて答えました。「私はサイババです。家を清潔に保ちマインドを清らかにしなさい。我はそこに永遠に宿りましょう。」

ペッダ・ヴェンカパ・ラジュの手から棒が床に落ち、彼は啞然として立ちつくしました。そして「もしおまえが本当にサイババであるなら、私達に何か証拠を見せなさい。」と述べます。サティヤは、ひとつかみのジャズミンの花を手に取り、地面にむかってまきました。ジャズミンの花は落ち、地面でそれはテルグ語で「SAI BABA」の文字を形作りました。

この日より、村や近隣の村の全ての人々がサティヤを、サティヤ・サイ・ババと呼ぶようになりました。彼らは、サティヤ サイ ババを大きな帰依心を持って礼拝し、毎週木曜日には特別なプージャ（儀式）を捧げ始めました。

シュリ サティア サイ、サティア ナラヤナ カタの第2章を吉兆の内にここに終えます。シュリ・サイに帰依致します。

全てに平安がありますように！





### 第3章：バーラ・サイの神の遊戯

7

年を追うごとに、村の人々はサティヤの隠れた力に気付き始めました。彼らは、尊敬の念を持ちサティヤのことを「スワミ」と呼び始めました。

ある日、スワミと家族はハンピのシュリ・ヴィルーパクシャ寺院を訪れました。寺院に到着すると、スワミは皆とともに中へは入らず、寺院の門近くに立っていました。その間寺院の聖域においてプージャが始まると、何とスワミが神聖なリングムの置かれる祭壇に立っていました。それを見て家族は大いに驚きました。

家族は寺院の門にサティヤを残してきたばかりなのです。どのようにして、そのサティヤが寺院の中の聖域に立っているのでしょうか？家族はただちに外へ飛び出して行くと、そこにはスワミが以前の通り1人で、空を見つめ、純粋な笑みをかわいらしい唇に浮かべ、立っています。家族は畏敬の念に打たれ、スワミの御足に平伏しました。

ある日、スワミは学校から帰宅すると、スクールバックを投げ出し、大きな声で宣言しました。「マーヤ（幻想）は去った。わたしはもうあなた方のものではない。私の信者が待っている。」家の中に居たスワミの義理の姉は、大急ぎでスワミの元へ外に出て行くと、スワミの頭部を包う眩いばかりのオーラにより目がくらみそうになりました。あまりの眩さに耐え切れず、彼女は目を覆いました。

母イーシュワランマは、スワミに愛を持って懇願しました。「息子よ、家族を離れ信者の元へ行かねばならぬのなら、このプッタパルティの地に留まり、あなたの子供達を守り恩寵を受け続けてもらえないか？」スワミは、母の謙虚な懇願に快く同意しました。

スワミは、日々増え続け来訪する信者の世話をするために、カーナム・スッバマの大きな家に長い間滞在しました。スッバマ自身もスワミの敬虔な信者でもありました。信者は、至る所からたくさん来訪し始めました。

時として、滞在する人々に与える食料が足りないこともありました。そのような時は、スッバマは決まってスワミに助けを求めます。

スワミは、キッチンに2つのココナッツを持って行き、互いをぶつけ合わせてココナッツを砕き、そのココナッツジュースを食物の上に降り注ぎます。するとどうでしょう、勝手に食物が全員を満たすに十分な量となり、そしていくらかの食べ物が残るほどになりました。

信者の数が増えるにつれ、スッバマの家の横にバジャンホールの建設も捧げられました。ある日スワミがスッバマの家に居る際、ラクシュマイアという名の祭司が友人と精神を患ったその妻と共に訪れました。祭司は、友人とその妻をチットラバティ川の畔で待たせました。

スッバマの家に到着した祭司は、スワミと出会います。スワミであることを知らずに、祭司は彼に尋ねました。「この村に病気を治せる少年がいると聞きました。私は友人と精神病を患っているその妻を連れてきています。その少年のところへ私を連れて行ってくださいませんか？」

スワミは、その夫妻を彼の元へ連れて来させ、沐浴をしてから信者と共に座るようにと述べます。スワミは、プラサードを皆に配り、神聖灰を物質化してその精神病の婦人の口へと入れました。

その後、スワミは捧げ物として夫妻が持ってきたフルーツを切り、それを食べるよう手渡します。皆のしている中、その精神病の婦人は普通の状態に戻りました。夫妻は敬意を持ってスワミに平伏し、幸せに村を去りました。

カーナム・スッバマの余命が短くなるにつれ、スワミは彼女にたくさんの慈善行為を行わせました。ある日、スワミがバンガロールに出かけている際、スッバマは健康を崩します。そうした最中も、スッバマのこころは常に愛するスワミに集中していました。スワミの神聖な御名を唱える彼女の口が動きを止め、呼吸が止まりました。彼女はスワミの御名を唱えながら息を引き取りました。

忽然とスワミがどこからか現れました。スワミは、愛らしい声でスッバマの名を呼びます。「スッバマ！スッバマよ、口をあけなさい

い！」すると、身体的には死に至っていたスッバマが、口を開き、手を震わせながら手探りでスワミの御足をつかもうと動き始めました。

スワミは、スッバマの震えた手を優しく彼の手に取り、右手でガンジス川の神聖な水をスッバマの口から彼女の乾いた魂へと注ぎ込みました。スワミの真の信者、スッバマは、スワミの神聖な蓮華の御顔を拝みながらこの世を去り、彼に融合しました。

信者の願いに答え、スワミは彼らの選んだ神として自身を御現しになります。ある者に対しては主ガネーシャ神として、ある人に対しては主ムルガ神として、また別の人々にはシュリ・ラマ又はシュリ・クリシュナとして、そしてまた別の者には主 キリスト として、自らを御現しになり、すべての人々を喜ばせます。

ある時、クリシュナマチャリという名の弁護士が、スワミがいかさま師であると証明しようと ペヌコンダからプッタパルティへやって来ました。この弁護士は、スワミの父親によりスワミの元へと連れてこられました。スワミは、弁護士を部屋へ招き入れ、目を閉じるようにと言いました。彼らが部屋の中に入ると、スワミは彼らに目を開けさせます。弁護士がそこに見たものは、シルディ・サイババのサマーディ（祭壇）でした。そのシルディババの彫刻の首からは花飾りが掛けられ、横には祭司がプージャを行う品々を手に携え立っており、弁護士はその光景に大変驚きました。

スワミは弁護士に反対側を見るようにと言います。そこには、神聖なシルディの町にある、ハヌマン寺院、ニームの木、グルスータン、そしてその他いろいろな場所があります。弁護士は、シルディ・サイババの敬虔な信者であったのです。彼は、シルディ・ババのサマーディのダルシャンを受けると、スワミの蓮華の御足に平伏し、許しを請いました。ダーヤ・ムルティ（慈愛の化身）スワミは、彼の背中をたたき、即座にお許しになりました。

スワミは全能です。どのような名でも愛を持って彼を呼ぶ者には、スワミは応え祝福をお与えになります。

シュリ サティア サイ、サティア ナラヤナ カタの第3章  
を吉兆の内にここに終えます。シュリ・サイに帰依致します。  
全てに平安がありますように！



## 第4章：信者の聖なる避難所

シュリマティ・サカマーは、とても大きなコーヒー畑を所有していました。彼女は、非常にサトイック（浄性）な神聖な女性で、貧しい民に食事や衣服を与えたり、たくさんの慈善行為を行っていました。彼女のそうした活動を認め、マイソールのマハラジャが「ダルマ・パラヤネ」という称号を与えたほどでした。

ある朝 10 時位頃に、サカマーが朝のプージャを執り行っていると、誰かがサカマーに至急会いたくて車で訪れたと、サカマーの女中が伝えました。サカマーが外へ出て行くと、そこには「カイラサ委員会」と書かれたボードが掲げられた古い車がありました。正面座席には、ボサボサの髪の毛をした 16 歳位の若い少年が座っています。後部座席には髭を生やした威厳のある高齢の男性が鹿の皮の上に座しており、彼の額と身体には神聖灰が塗られています。

サカマーは、老人を迎え入れ、彼の足を洗い、花とフルーツを捧げて信心深く礼拝しました。老人は、1000 ルピーを支払いカイラサ委員会のメンバーになるようにと述べました。サカマーは、喜んでその額を支払います。しかし領収書と共にお金は彼女に返却され、老人はまた訪れると告げて去りました。それから数年が経ち、しかしカイラサ委員会の姿はどこにも見ることはありませんでした。

ある日、サカマーはバンガロールに行かねばなりませんでした。1 人の友人の家を訪れていると、何と驚いたことに、サカマーはあのボサボサ髪の毛の若い少年を見つけたのです。彼女がその少年を見ていると、少年はあの老人に変容し、そして元の少年の姿に戻りました。サカマーは愕然としました。彼女は意を決して少年の側まで行き、少年に尋ねました。「あなたは、私の家にカイラサ委員会としてこられた方ではありませんか？」

少年は答えました。「何年も前に、あなたは 1000 ルピーを支払わねばなりませんでした。しかし、あなたは払わなかった。それゆえ、私はその負債をあなたから直接取りに行ったのです。」サカマーの

目から涙が溢れ出ました。彼女はスワミに平伏し、そしてスワミの恩寵を得ました。

ある日の午後のことです。スワミが何人かの信者と話していると、スワミは突然叫びました。「打つな！打ってはならない！」と述べると、スワミはその場に倒れ意識を失いました。

約1時間後スワミは起き上がり、<sup>1</sup>ある人宛に以下のように電報を打つようと述べました。「あなたの拳銃は私の元にある。心配しないでよい。」

誰かが、「拳銃」という言葉は、郵便局が不審に思うだろうので使わない方がいいと述べたので、その代わりに「道具」との言葉が使われ、電報は送られました。居合わせた人皆がこの突然の出来事を不思議に思い、スワミに一体何があったのか聞きました。スワミは、すぐに分かる、と彼らに告げました。

4日後のことです。1通の手紙がボパールのある陸軍士官より届きました。この仕官は、ある出来事が理由で、怒りのあまり拳銃で自殺を図ることを決意していました。彼は、部屋の中で試験として空に向けて一発打ちます。その瞬間にインドの反対側からスワミが「打つな！打ってはならない！」と叫んでいました。

それと同時に、仕官の部屋のドアがロックされます。仕官は、拳銃をすばやく隠しドアを開けると、古い友人が妻と女中と共に彼を訪れて来ていました。仕官は、彼らを部屋の中へ通し、数分すると、別の古い友人である隣人を訪れることとなります。それから帰宅すると、仕官はドアに鍵をかけ、拳銃を隠した場所まで行きました。しかし、彼はそこに拳銃を見つけることが出来ませんでした。するとまたドアをロックする音が聞こえ、ドアを開けると、今度は郵便配達人がそこにおり電報が手渡されました。その電報にはこのようなメッセージがありました。“「あなたの道具は私の元にある。心配しないでよい。」送り主：ババ”

私達のスワミは、誰であれ彼を礼拝する者を見捨てたり失望させたりはしません。私達は、単にスワミを呼びさえすれば、スワミは彼の4本の腕である、真実、正義、平安、愛、を携え、ただちに助けに駆けつけます。スワミの偉業は言葉では言い尽くせません。上記出来事では、仕官の妻が敬虔なるスワミの信者でありました。

シュリ サティア サイ、サティア ナラヤナ カタの第4章  
を吉兆の内にここに終えます。シュリ・サイに帰依致します。  
全てに平安がありますように！



## 第5章：慈悲深きスワミ

12

ある日、スワミはバンガロールのとある家を訪れました。そこには  
たくさんの方が、スワミのダルシャンを受けるために集まっていま  
した。ある人はスワミに捧げるために花や果物を持参し、またある  
人々はスワミの奇跡や慈愛について話したりしています。

ある一人の貧しい靴屋が彼らの話を聞いていました。突然彼の頭に  
美しい想いが浮かび、彼はアバターを一目でも垣間見れたらと願  
いました。彼は、庭からバラの花を挽ぎ取り、人ごみの中をスワミが  
座っている方へとゆっくりと押し分けて進んで行きました。中を覗  
いてみると、何と中に居たスワミも同時に外を覗き返し、2人の目  
と目は合いました。その瞬間、堪え難く甘く美しい愛が彼の内から  
スワミへと溢れ出しました。

スワミは愛らしく彼を近くに呼びました。靴屋はスワミの元へと近  
づき花を捧げ、スワミは快くバラを受け取ります。スワミは、靴屋  
の地方語であるタミル語で「親愛なるものよ、何か欲しいものはあ  
るかい？」と聞きます。靴屋は質問の準備など全くしていませんで  
した。しかし、彼は自然と「スワミ、私の小屋を一度訪れてくださ  
い。」と尋ねます。スワミは、「もちろん訪れましょう。」と快く  
お答えられました。

喜びの涙が靴屋の目から溢れ出します。尊敬の念を持ち、彼はスワ  
ミの蓮華の御足に平伏しました。あまりの喜びに、彼はいつスワミ  
が彼の小屋を訪れてくれるかさえも聞くのを忘れていました。スワ  
ミが住居を後にすると、こうした質問が靴屋の頭に浮かびます。月  
日が経ち、しかしスワミが靴屋の小屋を訪れる何のサインもありません。

ある日のことです。靴屋がボロボロになったサンダルを修理してい  
ると、ある1台の車が彼の作業場前の道路に止まりました。彼は警  
察の車だろうと察し、すばやく修理道具などを片付けて逃げる準備

をします。彼は警察が彼を追いやりに来たと思ったのです。しかしその代わりに車から出てきたのは、スワミでした。スワミは、靴屋に恐れぬようにと述べ、彼を車の中に座らせました。靴屋は、あまりのショックに話すことさえ出来ません。スワミは、ドライバーに靴屋の小屋へ直行するよう指示しました。

靴屋は車から外に出て自分の小屋の中へ入りました。彼は、妻にマットレスを敷かせ、すぐさまスワミのお迎えをさせます。スワミはマットレスに座りました。すると靴屋は、主に捧げるものが家中どこにも無いことに気が付きます。彼は窮地に陥り、苦悩で手を握り締めます。

彼の境遇を見て、スワミは、心配することはないと述べます。スワミは与えるためにやって来たのであり、彼からはスワミへの愛を除いては、何も取り上げに来たのではないと述べました。スワミは手を一振りし、お菓子やフルーツを物質化し、そこに居合わせた全ての人にそれを配ります。そして、神聖なるビブーティを物質化し、靴屋の額にお付けになりました。

帰り際に、スワミは、「そろそろおいとましましょう。心配しないでよい。私は常にあなたと共に居る。」と述べ、靴屋が何かを言える前に車に乗り込み去って行きました。スワミは質素な靴屋の小屋を寺院へと変容させたのでした。

ある日、スワミがトゥリチナポリという町へ出かけた際、ある人々がスワミに対する偽りの噂を広め始めました。その夕方、スワミが集まった人々に講和をしていると、スワミは誰もが知っている言葉の話せない乞食の少年を舞台上へと呼びました。そして皆の前で彼の名前を聞きました。言葉を話せず生まれたこの少年は、大きな声で「ベンカタナラヤナ！」と返答しました。誤りの噂を広めた人々は、恥で頭を下げました。スワミのマヒマ（栄光）は数え切れないほどあります。

ある時ティルバナマライの町で、スワミはアムリタナンダと呼ばれるスワミに薬を物質化して与え、患っていた慢性病から彼を救いました。またある時は、バガバンタム博士の息子にスワミ自身が手術を施し彼を救いました。手術に必要な道具もスワミが物質化し、その道具は今だにバガバンタム博士の手元にあります。

シャンカラ博士は、スワミの敬虔な信者の1人です。スワミは、シャンカラ博士の肉体に何度も入り込み非常に困難な手術を成功に導きました。

カルニヤナンダ・スワミは、アンドラ・プラデッシュ州にアシュラムを持っており、彼はそのアシュラムの病院に数枚のスワミの写真を掲げていました。

ある日、ある妊婦が助けを求めてアシュラムへやって来ました。カルニヤナンダ・スワミは、すぐにこの女性をアシュラムの病院に入院させます。ある晩のこと、助産婦達がこの妊婦を1人残して夜遅く映画を見に出かけてしまいました。

その間、妊婦に激しい陣痛が始まりました。無力で1人苦しんでいる妊婦に見かね、スワミは壁に掲げられた写真からお出でになり、この婦人を助け無事赤子を出産させます。母なるサイは、生まれたばかりの赤子を洗い、母親の脇へそっと置きました。

助産婦達が戻ると、誰かが彼女たちの仕事を全てやっていたことに気づき、彼女達は大変驚きます。婦人に尋ねると、彼女は壁に掛けられたスワミの写真を指差し、女行者が来られて助けてくれた、と述べたのです。しかし彼女は、この女行者がナラヤナ神自身であったことを、全く知るすべもありませんでした！

シュリ・サティヤ・ナラヤナが、もう一度ご降臨なさり、私達皆をお守りになっています。彼を信頼するものは誰であれ常に守られます。私達が、主のダルシャン・スパルシャン・サンバーシャン（見ること、触れること、会話すること）を受けることができるのは、数え切れないほどの過去世を通して得た幸運です。

スワミの本質は愛です。スワミは、バクティ（信仰）そしてダルマ（正義）の道を歩むもの全てを守り給います。彼は、ある人々にはイーシュワラと呼ばれ、ある人々には父、そしてある人々にはアッラーと呼ばれます。

そのように、バガヴァン・シュリ・サティヤ・サイババは、あらゆる神の御姿をお取りになります。それは全ての姿形そして御名が彼のものだからです。スワミは、彼の信者に祝福を与え、信者の望みを叶えます。彼は、人間的価値こそは私達の命そのものだと述べます。サティヤ（真理）・ダルマ（正義）・シャンティ（平安）・プレマ（愛）無くしては、教育は空虚なものであり、サティヤ・ダル



マ・シャンティ・プレマ無くしては、慈善行為や寄付は、その価値を失います。サティヤ・ダルマ・シャンティ・プレマ無くしては、神聖なる行事と呼ばれるものも無意味なものとなります。永遠なる人間的価値である、サティヤ、ダルマ、シャンティ、プレマは、サナタナ・ダルマ（永遠なる正義）の4本の柱です。サナタナ・バガヴァンは、常に神のことを考え、それを延期しないようにと教えます。神の御名のみが救済をもたらします。

このプージャを、愛と帰依のこころを持って執り行うものは誰であれ、主シュリ・サティヤ・サイ、サティヤ・ナラヤナが、幸せで平安な人生をお与えになり、心配事や悲しみを取り除き下さいます。

是を以ち、シュリ サティア サイ、サティア ナラヤナ カタを  
吉兆の内にここに終えます。 シュリ・サイに帰依致します。  
全てに平安がありますように！



愛するバガヴァンは、この小冊子を、

2002年2月7日木曜日に H・S・バット博士を通して、  
2009年10月22日木曜日に M・N・モハン・クマール氏  
を通して、祝福なさいました。

16

## サイ・ガヤトリ・マントラ



Om Sayeeshvaraya Vidmahey  
Sathya Devaya Dhemahi  
Than Nah Sarvah Prachodayat

オーム サーイーシワラーヤ ヴィツ (ド) マヘー

サッティヤ デーヴァーヤ ディーマヒ  
タンナツ サルヴァッ プラチョーダヤーート (ウ)

私の身体、マインド、魂を持って、主に帰依いたします。

[このマントラを毎日唱えます。]

17

## サルバ・ダルマ・プレイヤー

Om Tat Sat Sri Narayana Tu, Purushottama Guru Tu  
Siddha Buddha Tu, Skanda Vinayaka, Savita Pavaka Tu, Savita Pavaka Tu  
Brahma Mazda Tu, Yehova Shakti Tu, Ishu Pita Prabhu Tu  
Rudra Vishnu Tu, Rama Krishna Tu, Rahim Tao Tu, Rahim Tao Tu  
Vasudeva Go Vishwa Roopa Tu, Chidananda Hari Tu  
Adviteeya Tu, Akala Nirbhaya, Atmalinga Shiva Tu  
Atmalinga Shiva Tu, Atmalinga Shiva Tu

オーム タット サット シュリ ナーラーヤナ トウ  
プルショーッタマ グル トウ  
スイッダ ブッダ トウ スカンダ ヴィナーヤカ  
サヴィター パーヴァカ トウ (×2)  
ブランマ マズダー トウ ヤーヴァ シャクティ トウ  
イエーシュ ピター プラブー トウ  
ルドラ ヴィシュヌ トウ ラーマ クリシュナ トウ  
ラヒーマ ターオー トウ (×2)  
ヴァースデーヴァ ゴー ヴィシュワルーパ トウ  
チダーナンダ ハリ トウ  
アドゥヴィティーヤ トウ アカーラ ニルバヤ  
アートマリンガ シヴァ トウ (×3)

あなたは、それ(至高実在)、絶対実在、万人万物の内在者(ナーラーヤナ、ヴィシュヌ神)です。あなたは、最高位のお方(プルショーッタマ)、師匠(グル)です。あなたは、成就者(スイッダ)、仏陀(ブッダ)、軍神スップラマニヤム(スカンダ)、障害を取り除くガネーシャ(ヴィナーヤカ)、太陽神(サヴィター)、火の神アグニ(パーヴァカ)です。あなたは、創造主ブランマー、ゾロアスター教最高神(アフラ マズダー)、万物の創造主ヤハウエ(ヤーヴァ)、力やエネルギーの女神パールヴァティ(シャクティ)です。あなたは、イエス、父

(ピター)、主ヴィヌシュ(プラダール)です。あなたは、悪を破壊するシヴァ神(ルッドラ)、ヴィシュヌ神、ラーマ神、クリシュナ神です。あなたは、慈悲深いアッラー(ラヒーマ)、道教の道(タオ)です。あなたは、すべてに宿る神(ヴァースデーヴァ)、聖なる乳牛(ゴー)、宇宙普遍相(ヴィシュワルーパ)です。あなたは、純粹意識・至福(チダーナンダ)、全宇宙に遍満する実在ヴィシュヌ神(ハリ)です。あなたは、唯一不二(アドヴィティヤ)、時の超越者(アカーラ)、恐れのない者(ニルバヤ)、シヴァ神から現れたリングム(アートマリングム)です。

## アラティ

Om Jaya Jagadeesha Harey オーム ジェイ ジャガディーシャ ハレ  
Swami Sathya Sai Harey スワミ サティヤ サイー ハレー

Bhakta Jana Samrakshaka x2 バクタ ジャナ サムラクシャカ (×2)  
Parthi Maheshvara パルティ マヘーシュワラ

Om Jaya Jagadeesha Harey オーム ジェイ ジャガディーシャ ハレー

(オーム シュリ サティヤ サイババ尊き神 サイババあなたに帰依する者を  
守らせ導きたもうパルティの尊神 オーム シュリ サティヤ サイババ)

Sashi Vadana Shree Karaa シヤシヴァダナー シュリーカラ  
Sarva Prana Patey, サルヴァ プラーナ パテー

Swami Sarva Praana Patey スワミ サルヴァ プラーナ パテー

Ashrita Kalpa Lateeka x2 アーシュリタ カルパラティーカ (×2)  
Apad Bandhava アーパッド バーンダヴァ

Om Jaya Jagadeesha Harey オーム ジェイ ジャガディーシャ ハレー

(優しい笑顔で 微笑むまなざし悩める子らの力生きとし生ける命の 正しき  
願いを満たす至高の尊神 オーム シュリ サティヤ サイババ)

Mata Pita Guru Daivamu マータ ピター グル デイヴァム

Mari Antayu Neevey

Swami Mari Antayu Neevey

Nada Brahma Jagan Natha x2

マリ アンタユ ニーヴェ  
スワミ マリ アンタユ ニーヴェ  
ナーダブランマ ジャガナータ (×2)  
ナーゲンダラシャヤナ  
オーム ジェイ ジャガディーシャ ハレー  
19

(母なり 父なり 慈愛の仏陀なりスワミ 慈愛の仏陀なり宇宙を統べるサイ  
ババ オームの尊神サイババ英知の光 オーム シュリ サティヤ サイババ)

**Omkara Roopa Ojaswi** オームカーラ ルーパ オジャスウィ  
**Om Sai Mahadeva** オー サイ マハーデヴァ  
**Sathya Sai Mahadeva** サティヤ サイ マハーデヴァ  
**Mangala Arati Anduko x2** マンガラ ハーリヤティ アンドコ (x2)  
**Mandara Giridhari** マンダラ ギリダーリ  
**Om Jaya Jagadeesha Harey** オーム ジェイ ジャガディシャ ハレー

(原初の音オームの化身、至高の尊神サイよ！ 浄きこの火をどうぞお受けく  
ださいアールティの聖なる火をすべての神は愛なり 慈愛と英知に満ちた蓮華  
の御足にこの火を捧げます)

**Narayana Narayana Om Sathya** \* ナラヤナ ナラヤナ オム サティヤ  
**Narayana Narayana Narayana Om** ナラヤナ ナラヤナ ナラヤナ オーム  
**Narayana Narayana Om Sathya x2** ナラヤナ ナラヤナ オーム サティヤ (x2)  
**Narayana Narayana Om** ナラヤナ ナラヤナ オーム  
**Om Jai Sadguru Deva** オーム ジェイ サッド グルデーヴァ \*

(主サティヤ・サイ、サティヤ・ナラヤナの御名を唱えよう、高德な師、至  
高の主、シュリ・サティヤ・サイに栄光あれ！)



Om Shanti Shanti Shantihi

オーム シャンティ シャンティ シャンティ

(オーム 平安, 平安, 平安)

20

( \* ~ \*は3回繰返す )

サマスタローカ

Samasta Lokah Sukhino Bhavantu x3

Om Shanti Shanti Shantihi

サマスタローカ スキノー バガヴァントウ (x3)

オーム シャンティ シャンティ シャンティ

(一切の世界の全ての生命に平安あれ)

オーム 平安, 平安, 平安)

Jai Bolo Bhagawan Sri Sathya Sai Baba Ji Ki Jai!

ジェイ・ボロ・バガヴァン・シュリ・サティヤ・サイ・  
ババ・ジキ・ジェイ!

ヴィブーティ・プレイヤー

Paramam Pavitram Baba Vibhutim, Paramam Vichitram Leela Vibhutim  
Paramartha Ishtartha Moksha Pradanam, Baba Vibhutim Idam Ashrayami

Om Shanti Shanti Shantihi

パラマム パヴィトゥラム ババ ヴィブーティム  
パラマム ヴィチットウラム リーラ ヴィブーティム



パラマータ イシュタータ モークシャ プラダーナム  
ババ ヴィブーティム イダマーシュラヤーミ  
オーム シャンティ シャンティ シャンティ

(主サティヤ・サイの至高の神聖なるビブーティに帰依します  
この聖なる神聖灰は我らに解脱を与え給う  
オーム 平安, 平安, 平安)



主よ、私はあなたに何を祈ればよいのでしょうか？

私の愛する主サイよ、私はあなたに求めるものは何也没有ありません。

私は、人が望み祈る全てのものを祝福されています。

私には考えるマインドがあります。それはあなたの栄光です！

私には、見る眼、そして聞く耳があります。

これら全てはあなたの栄光です！

世界は広く多様性に満ちており、私を表現するのには十分です。

これもあなたの栄光です！

私には、作り出し、そして作らぬことも出来ます。

これら全ての可能性は、正にあなたの栄光です！

主よ、私はこの祈りを常にあなたに捧げることが出来ます。

あなたの真の価値を理解するこの能力も、あなたの栄光です！

あなたは私に全てをお与えになりました。

私はあなたから何も求めません。

私の内そして外にあるあなたの存在こそは、

私が最も必要としているものです。

これを失うことは私には出来ません。

主よ、あなたの恩寵が私に降り注ぎ、

何か新しい物を与えるのではなく、

私が常にあなたの栄光を見ることが出来ますように！

私の全ての成功に、私の全ての能力に、

あなたの栄光が見えますように！

## サイラム

Copyright (English) 2002. Prasanthi Jyothi.  
Translated into JAPANESE by Toshi Ando  
Website: <http://www.sathyasaikatha.com>  
Email: [prasanthijyoti@gmail.com](mailto:prasanthijyoti@gmail.com)

22

わたしへ1歩近づきなさい。

そうすれば、わたしは、

